

図画工作科学習指導案

指導者 大道小学校 浦野ますみ

1. 日時・場所 令和4年7月13日(水) 第3, 4校時 Aグループ 場所: プレイルーム
 令和4年7月14日(木) 第3, 4校時 Bグループ 場所: プレイルーム
2. 学年・組 個別支援学級 Aグループ 1年 5名(知的 2名、情緒 3名)
 2年 6名(知的 1名、情緒 5名)
 Bグループ 4年 4名(情緒 4名)
 5年 4名(知的 3名、情緒 1名)
 6年 2名(情緒 2名)

3. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

○材料を基に造形的な活動を思い付き、思いのままにつくる。

○活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や考え方を広げる。【A表現(1) ア(2) ア】【B鑑賞(1) ア】〔共通事項〕

子どもたちの姿	教師の願い
<p>○絵に表す活動が苦手な児童もいるが、造形遊び、立体や工作に表すことは好きで、基本的に図工が好きな児童が多い。</p> <p>○発想を広げ、次々に思いついて表現することが得意な児童もいるが、どんな活動をするか見通しがもてるまでは活動に参加することができない児童もいる。</p> <p>○触覚が過敏で初めての材料との関わりに不安を感じる児童もいる。</p>	<p>○たくさんの材料と関わり、試行錯誤する中で、手指の巧緻性を高めたり、次々と発想する楽しさを味わったりしてほしい。</p> <p>○友達の活動を見て、自分の活動に取り入れたり、声をかけあったりして、自分や友達の活動の価値を認め合えるようになってほしい。</p>

<p>題材名 スマイルフラワーラボ まほうのいろみずのけんきゅう ～まほうのいろみずを まぜたりならべたりしてたのしよう!～</p>
<p>題材目標</p> <p>○色水をつくったり並べたりする活動で自分の感覚や行為を通して、形や色に気付き、水や透明容器など身近な材料や用具に十分に慣れるとともに、つくった色水を並べたり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくるようにする。</p> <p>○色水をつくったり並べたりする活動を通して、色水や透明容器など身近な材料の形や色などを基に自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えるとともに、身近な材料でできる形や色などの造形的な面白さや楽しさについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。</p> <p>○楽しく色水をつくったり並べたり、その活動を見たりする活動に取り組み、作りだす喜びを味わうようにするとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養うよ</p>

うにする。

題材について

赤・青・黄・緑4色の食紅を溶かしてできる濃い色水に水を加えたり、他の色と混ぜたりしながら色水をつくったり、それを透明容器に入れて並べたりするなかで、気に入った色を見付けたり、色や容器の形の組み合わせを工夫したりして楽しむ活動である。食紅の色水は透明で光を通すので、色のついた影や容器を重ねてできる色などから新しい発想や活動が生まれる可能性がある。

○「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力と本題材との関連

子どもにとって最も身近な材料の1つである水を材として、色水を透明容器に入れるという単純な行為で、様々な色や形をつくりだす楽しさを十分に味わうことができるようにする。また、面白さや楽しさを感じ取ったり、考えたりするために、みんなの色水コーナーにつくった色水を置いたり並べたりする活動を取り入れることで、さらにどのように活動をしていこうか考えられるようにする。友達の活動にも意識が向くように声かけをし、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。

4. テーマにせまる手だて

研究主題

感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造
～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～

低学年部会テーマ

思いのままに つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出あいの工夫

- ・実験室や研究室の雰囲気醸し出すために、教師は白衣を着て、博士っぽいふるまいをする。
- ・教師は博士、児童は研究員という設定で、世界で一番美しい色水をつくることを提案する。
- ・500mlのペットボトルに濃い目の赤・青・黄・緑4色の色水（まほうのいろみずのもと）をつくっておく。
- ・児童用に4色の色水を入れる小さい容器を用意しておいて、厳かな雰囲気の中で各自に配付する。
- ・水を吸い取り、混ぜるなど、すべてスポイトを使って活動する。

○場の設定の工夫

- ・教師は白衣を着用し、透明容器、色水を整然と並べて、実験室や研修室の雰囲気醸し出す
- ・大きく3つの場所（①材料・用具を置く場所、②児童が活動する場所（自分の机）、③できた色水を置く場所）に分け、活動しやすい動線を確認する。
- ・活動する場所と水場の動線を確認し、移動時に滑らないようにするなど安全に配慮する。
- ・色水を置く場所は日光が差すところで、一人ひとりが置き方・並べ方を工夫できる広さを確保する。

○共感的支援の工夫

- ・ スポイトの使い方や色水を扱う際の注意事項など材料用具の取扱いについて指導を徹底する。
- ・ 題材の評価規準を基に、各児童の評価規準を設定しておくことで、個に応じた支援をする。

○小中一貫の視点

- ・ 本題材が水彩絵の具の混色や透明な材料を使った活動につながっている意識をもって指導する。

5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 自分の感覚や行為を通して、形や色に気付いている。・ 水や透明容器など身近な材料や用具に十分に慣れるとともに、つくった色水を並べたり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。	<ul style="list-style-type: none">・ 色水をつくったり並べたりする造形遊びをする活動を通して、色水や透明容器など身近な材料の形や色などを基に造形活動を思いついたり、新しい形や色を思いつきながら、どのように活動するかについて考えている。・ 自分や友達の活動を鑑賞することを通して、身近な材料でできる形や色などの造形的な面白さや楽しさ、表したいことや表し方などについて、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や考え方を広げている。	<ul style="list-style-type: none">・ つくりだす喜びを味わい楽しく色水をつくったり並べたりする学習活動に取り組もうとしている。

6. 指導と評価の計画 2単位時間（90分）

ア. 教師の投げかけをきっかけに、活動内容を知る。（15分）

イ. 赤・青・黄・緑の色水と水を組み合わせる新しい色水をつくる。（30分）

ウ. 色水の並べ方や色水の組み合わせを工夫する。（45分）

	子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知・技	思判表	主体的
ア	「スマイルフラワーラボ」へようこそ					
	<p>○教師の投げかけや示範の実験から本題材の活動内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透明の色水がきれい。 ・やってみたい！ ・博士になったみたい。 		<p>○スポイトの使い方、色を混ぜる際の注意事項を指導する。</p>			
イ	あか・あお・き・みどりの4しよくであたらしいいろみずをつくろう					
	<p>○赤・青・黄・緑の色水と水が入った容器、スポイトを受け取り、透明容器に新しい色水をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青と赤で紫色ができる。 ・水を加えるとどんどん透明になる。 ・全部の色をまぜてみよう。 	<p>知・技</p> <p>色水をつくる行為を通して、色の変化に気付いている。</p> <p>【行動観察】</p>	<p>○示範を通して実際に色水を混ぜて見せ、水に色水を少し入れただけで色がつくことや、混色のおもしろさに気付くようにする。</p>			
ウ	もっといろみずをつくったり、いろみずをならべたりしてたのしもう					
	<p>○色水づくりをさらにすすめたり、色の組み合わせや容器の並べ方を工夫したりして楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ濃さが違う色をつくろう。 ・虹みたいに色を並べるよ。 	<p>思・判・表</p> <p>色水をつくったり並べたりする活動を通して、新しい活動を思いついている。</p> <p>【発言、ロイロノート、ワークシート】</p> <p>主体的</p> <p>つくりだす喜びを味わいながら色水をつくる活動に取り組んでいる。</p> <p>【行動観察、ワークシート】</p>	<p>○いろいろな入れ物に入れた色水を見せるなどして、入れ物を変えると感じが変わることに気付くように声をかける。</p> <p>○友達のつくった色水の写真を共有して、きれいだなと思うものを見つけられるように声をかける。（ロイロノート）</p>			

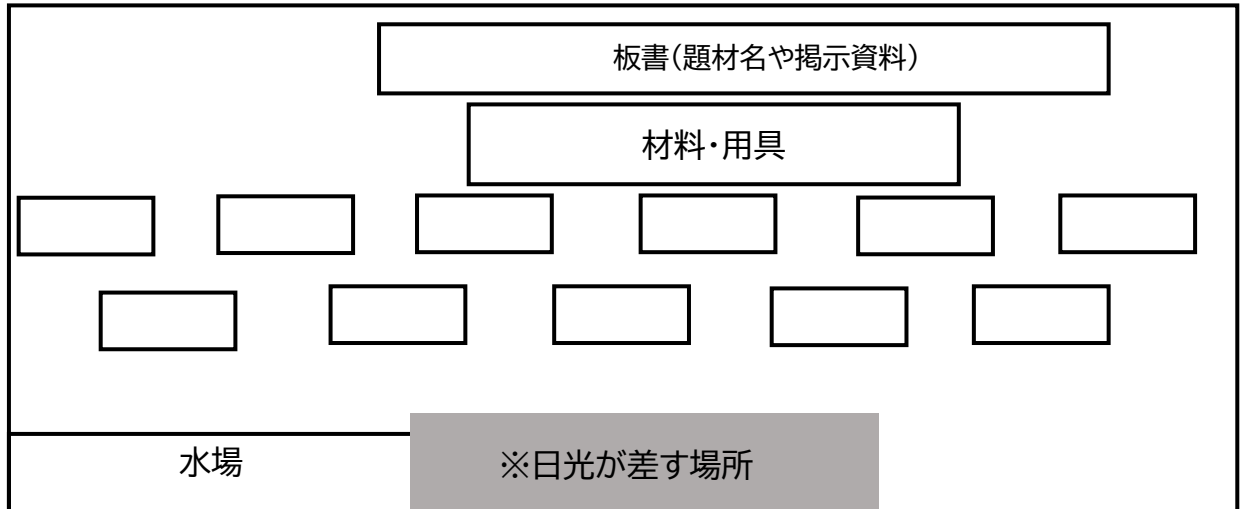
7. 準備

児童：タブレット端末、雑巾

教師：食紅（赤・青・黄・緑）、水、透明容器（ペットボトル、プラカップなど）、スポイト、タブレット端末

8. 場の設定

【教室】



9. 研究内容についてのふりかえり

① 「学習の方向性」をもとに育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

【感じたことや想像したことから表したいことを見付け、思いのままに表す。】

- ◎ スポイトで色水を混ぜるとい活動が分かりやすく、どの子も楽しみながら取り組むことができた。
- ◎ 色の混ざる過程の面白さや、色水や水の量を少し調整するだけで色に違いが出ることに気付くことができていた。
- ◎ 色水の入った水槽に、自分のつくった色水を入れて色が変わる様子を楽しむ姿が見られた。
- ◎ 色水に暗い場所で光を当てると、反射した光が混ざり合って新しい色をつくり出すことに気づき、紫色の光をつくるにはどうすればよいか考えて一生懸命活動する児童もいた。
- ▲ 児童によってはスポイトの扱いが難しい場合もあったので、指先を使うものだけではなく、にぎれば吸い上げることのできるスポイトの準備もあればよかった。
- ▲ 色水をつくる活動に区切りをなかなかつけられず、並べる活動にうつることのできない児童もいた。活動時間を一度しっかり区切ることも必要だった。
- ▲ 色を混ぜることが楽しくて、混ぜることをやめられず、すべて同じような色になってしまう児童もいた。

【活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や考え方を広げる。】

- ◎ 担任が声をかけなくても、友達の色水を見て、「何色を混ぜたの？」というかわりが自然に生まれていた。
- ◎ 一人ひとりと対話をしながら振り返る時間をもつことで、自分のつくった色水を、「〇〇くんとはちがうつよみどりをつくりました。」と、自分と友達の色を比較しながら、自分の色を捉え直す姿が見られた。
- ◎ ロイロノートでつくった色水の写真を共有することで、活動中には気付かなかった友達の色水の美しさに気付くことができた。
- ◎ 段ボールの中に色水を置いて光を当てている友達の活動を見て、異なる色を置いて影の色を混ぜることができるのではないかと気づき、活動の幅を広げる児童がいた。(高学年)
- ◎ 友達の色水で気に入ったものを、少し分けてもらって自分の色水に混ぜるなど、友達と一緒に共同研究することを楽しむ児童もいた。(高学年)
- ▲ ロイロノートで写真を共有するために、自分がきれいだなと思うところ(自分の色水、友達の色水、置き方、並べ方を工夫して)を撮るようにしたが、その活動があったことで時間に追われてしまった感じがあった。写真に撮るよりも、見たり、並べ方を試したりする時間をじっくりとることで、もっと自分の活動に生かすことができたのではないか。

② 「主体的で対話的な深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

- ◎ 場の設定を「ラボ」としたことで、“研究員”になりきって意欲的に活動することができた。導入の説明が少し長いかなと思っていたが、最後まで集中して話を聞き、活動時間を十分に楽しんでいた。
- ◎ 魚の形の醤油さしに色水を入れて、水槽に泳がせる活動を楽しむなど、入れ物の形を生かした活動を楽しむ児童の姿も見られた。さまざまな形の入れ物があると子どもの活動の幅も広がるということが分かった。
- ▲ プラカップをたくさん用意したが、特に低学年の子どもたちにとっては乳酸菌飲料の透明な入れ物が扱いやすかったらしく、ボトル型の入れ物にばかり入れていた。今回は入れ物を教師側が用意してしまったが、もっと早い段階からお知らせをして自分の用意した容器があればもう少し活動の幅が広がるかもしれないと思った。
- ▲ 時間に追われながらの活動になってしまう場面があった。片付けも含めて、時間配分には余裕をもつ必要がある。



↑食紅は理科のカatalogに載っていました。(一つ 150 円)原液は付属のさじで 500mlのペットボトルに12~13杯入れてつくりました。



↑小さなスポイトを人数分×4本(一色一本)、大きなスポイトを人数分用意しました。



↑四つ切画用紙を敷いて、その上で活動しました。色の変化がよく見えました。



↑魚の形の醤油さしを泳がせて色の違いを楽しむ児童もいました。(高学年のみ。活動の後半に提示)



↑段ボールの内側と外側を黒い色画用紙で覆って暗幕代わりにしました。穴から光を入れて色の変化を楽しむ児童もいました(高学年)



★おまけ ↑余った色水(原液)でコーヒーフィルターを染めてお花をつかって教室の掲示物にかざりました。